



キャリア教育

「キャリア教育」という言葉を知っていますか。「キャリア」の語源は、ラテン語の「馬車の^{わだち}轍」で、人が歩んできた足跡、職歴、専門的スキルを要する職業についていることなどを意味します。そして、「キャリア教育」とは、児童生徒一人一人が、子ども、学習者、社会人、職業人、家庭人などとしての役割を果たしていくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育であり、これからの学校教育でも求められるものです。

来週一週間、2年生は職場体験学習に出かけます。この職場体験は、「キャリア教育」の核とも言えるもので、学校という閉ざされた社会から外に出て、学校生活では出会えない人々に接し、日常生活では体験できないことを経験することを通して、自分自身を見つめるとともに、未来を見つめることもできます。

本校では、以前は2～3日程度でしたが、平成18年度に文部科学省の『キャリア・スタート・ウィーク』事業を受けてから5日間になり、その成果がよく表れるようになりました。“緊張の1日目、仕事を覚える2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を創意工夫する4日目、感動の5日目”と、5日間働くことで、仕事に対するやりがいや楽しさ、厳しさを実感することができるからです。そして、将来の進路や生き方を考えるきっかけにもなります。また、家族や先生以外の大人(地域の人々)と接することで、人間関係の幅も広がっていきます。“小さな社会人”として、地元で活躍する2年生の活躍を期待しています。

また、1年生は、来年実施することになるので、自分はどんな場所で働きたいか、将来何になりたいかなどを、今のうちから考えておくことも大切だと思います。3年生は、去年の体験を思い出し、将来の夢を実現させるためには、今の「仕事」は「勉強」であることを自覚し、最後の追い込みがんばってください。

なお、下の文章は、日本のキャリア教育の第一人者である玄田有史氏(東京大学社会科学研究所教授)が、全日本校長会で『希望を語る』と題して講演された内容の一部です。



(前略) ある学校を訪問したとき、「自分は勉強が大嫌い。解けないし、分からないし、面白くない。勉強して一体何の役に立つの? x y やオームの法則は実生活では役に立たないのになぜ?」という質問を受けた。私は、「やる意味はある。きちっと筋道を立てて物事を考えるということが大人になっても大事なんだ」と言いたかったが、それでは説得力がない。そこで、「ほとんど役に立たないと思うよ」と答えた。なぜなら「自分の子どもの宿題でも難しく解けない問題もある。けれど解けなくて困らない。大学で経済学を学んでも金持ちになれないし、会社を倒産させた人もいる。かけ算の九九や漢字など必要最小限の基本的なことを除けば、役に立たないよ」と答えた。質問した生徒は「だろっ!」と満足げだった。

私は、勉強する理由は、分からないということに慣れる練習をしているのではないかと考える。分からないことから逃げ出さないというのが勉強であり、そのことが社会へ出てから一番役に立つのではないかと考えている。社会に出ると、待っているのは訳の分からないことの連続である。どんな職業であっても、それでも何とかやっていかなければならない。そのとき、100点満点が取れなくても51点以上取れば次に進める。「分からん」から逃げ出さない心と体でいたら、必ずチャンスとか希望はやってくる。

(中略) 会社で仕事ができる社員とできない社員がいて、伸びるのはどちらかということ、「すみません、ありがとうございます」と言える方だということも聞く。やりたい仕事が見つからない人は「ありがとうございます」と言わせる人になろう。1日1回は「ありがとうございます」と言おうと助言する。「ありがとうございます」を言っているうちに、自分はこの方がいいな、おもしろいなと、やりたいことを発見できるからである。人は生きている限り、おもしろいことは必ずある。分からない人は、それを見つけれないだけである。「ありがとうございます」から見つかるのだから、あいさつは大事だと助言する。

私は、キャリア教育を応援している。キャリア教育とは、人生という長い道のりをどうやって歩いていくかである。いつも言うのは、人生きつと大きな壁にぶつかる。しかし、壁を乗り越えようとしなくていいよ。壁にぶつかったら、壁の前でちゃんとウロウロしていることが大事。そうこうしているうちに、壁の小さな穴が見つかるかもしれないし、壁が崩れてくるかもしれない。ウロウロしていることと、分からんということに慣れること、逃げ出さない体を中学生のうちにつくっておくこと、これが大事である。希望と失望の繰り返しは人生。しかし、「人生まんざらじゃない=セ・ラ・ヴィ」。最近この言葉が好きである。